



レジリエンスを育むために

総務省の発表によると、65歳以上の高齢者人口（9月15日現在）は推計で3514万人となり、総人口に占める割合が27.7%となりました。これは過去最高であるだけでなく、これからさらにこの割合が増えていくことが予想され、2040年には、総人口の35.3%が65歳以上になると言われています。

高齢者の割合が増えると言うことは、働く世代である生産年齢人口の割合が少なくなることでもあります。これは、社会保障費だけでの問題ではありません。働きながら、親の介護をする人が増えていく問題を含みます。

ある職場の一例を考えてみましょう。7人のチームの中で、親の介護をしている人が2人、育児をしている人が2人、育児休暇を予定している人が1人、若手の2人も、キャリアアップのため夜は学校に通っているという状況があたりまえになるでしょう。急に親が発熱のため、緊急入院となり、仕事を休む場合も日常的に起きうることでしょう。生産年齢人口の割合が少なくなっていく時代です。フルタイムで働ける人たちだけの職場とは限りません。多様性のある職場が、これからの時代に求められます。思うように仕事や介護ができない苦しみと、どのように向き合っていくと良いのでしょうか。

私は、苦しみから学ぶことが、これからの時代に求められると考えています。人は、ただ苦しむではありません。苦しみを通して自らの支えに気づくとき、解決が困難な苦しみを抱えたとしても、生き抜く力を身につけていくことができます。

医療や介護の現場で働く人も、企業で働く人も、育児や介護をしながら仕事を続けなければならない時代が来るでしょう。仕事も介護も100点だとれない自分に、ふがいなく思う人であったとしても、その苦しみの中で、なお残り続ける自らの支えに気づくとき、困難に負けないレジリエンスを身につけることができるでしょう。

個人のレジリエンスが、チームのレジリエンスとなり、企業のレジリエンス、そして日本のレジリエンスとして、超高齢少子多死社会に求められると考えています。今まで避けていたテーマかもしれない。しかし、これからの社会で生き残るために、求められる大切なテーマです。これからも、このテーマを発信していきたいと思えます。

小澤竹俊

NHK 総合テレビ「金曜イチから」に出演

9月1日午後7時30分よりNHK総合テレビ（生放送）に出演し、後悔しない看取りのために、というテーマでゲストの立場でコメントする機会がありました。本人の希望と家族の希望が異なることもあります。本人だけが良ければ良いのではなく、家族もともに、穏やかであるための方策をみんなで考えていく必要があります。嬉しかった事は、NHKプロフェッショナル仕事の流儀で紹介された患者さんの息子さんが、お父さんのメッセージを大切に今を生きている様子が放送されたことです。きっとお父さんも喜んでいることでしょう。限られた時間、少し遠慮気味に言葉を選んでしまいました。貴重な機会を有り難うございました。



日経新聞で在宅酸素療法が取上げられました

9月14日、日経新聞にて在宅酸素療法の記事として、めぐみ在宅クリニックの患者さんが紹介されました。それと同時に、適応疾患が限定であることが課題であることも紹介されました。安心して自宅で最期まで過ごせるために、酸素療法が広がることを期待します。

診 療 実 績

	2006~	2017年				2017年 計	総計
	2016年	1-5月	6月	7月	8月		
訪問回数	50,852	3,790	765	767	781	6,103	56,955
自宅永眠	1,769	87	17	14	20	138	1,907
施設永眠	218	23	8	5	7	43	261
在宅 (自宅+施設)	1,987	110	25	19	27	181	2,168
病院永眠	487	44	8	9	5	66	553